

# 照陽の家だより

来年も笑顔溢れる照陽の家で一緒に！！

今年もいよいよ年の瀬となりました。この1年変わらず照陽の家をご支援、ご協力頂き誠に有難うございました。心から感謝申し上げます。今年5月から新型コロナウイルス感染症も5類に引き下げられたものの今だ感染は継続しておりその上にインフルエンザが猛威を奮っている現状の中、続いての感染対策はご協力をお願いせざるを得ない所です。さて、来年は介護保険制度が施行（2000年施行）されてから24年目となり団塊世代が後期高齢者となる「2025年問題」の前年となります。改正に関する明確な決定事項はまだ少なく事業者としては不安も多々ありますが私共が掲げる「住み慣れた地域、自宅でその人らしくいつまでも」「尊厳尊重」の理念は揺るぐことなく進んで参りたいと思います。「終わりよければ全て良し」の言葉のように人生の終着駅が温かな陽射しに包まれた微笑みが行き交う風景である事を祈りながら新しい年に踏み出したいと思います。更なるご協力をお願い申し上げます。 施設長 三代富士子



## 救急救命講習(11/30)

今年の救急救命講習には消防署の佐藤佳穂様が講師として来て下さいました。講習の初めに、佐藤様より「高齢の方はいつ急変するか分からないですし、自宅で心肺停止の状態に遭遇する機会があるかもしれないという意識を持って下さい。」との話があり、緊張感のある講習となりました。講習時は利用者様も見学され職員が心肺蘇生している場面を見られました。この講習を通して、いざという時に迅速かつ的確な判断を職員一人一人が出来るようになるためにも、今後も講習や研修を重ねていくことが出来ればと思います。



## 令和5年度 第4回 運営推進会議 開催しました(11/17)

米子市長寿社会課並びに米子市義方湊山地域包括支援センターご担当者様、自治会長初め民生委員の方々にご参集（出席者10名・欠席者1名）頂き早速、皆様より最近の状況をお聞きし地域の情報共有をさせて頂きました。照陽の家では今回、看取り事例（10/30ご逝去）の報告をし委員の皆様より様々なご意見を頂きました。次回は令和6年1月19日を予定しています。

ちょっと早い

## クリスマス会

街のあちこちでポインセチアが目につくクリスマスの時期となりました。今年も恒例のクリスマス会を12月6日に開催しました。利用者様参加型のマジックショーやハンドベル演奏など余興を楽しんで頂き笑顔溢れる会となりました。暖冬のためホワイトクリスマスとはなりませんクリスマスメニューの昼食やおやつで季節を感じて頂けたのではないのでしょうか。メリークリスマス！



演奏会

サンタクロース

プレゼント



お誕生日  
おめでとう!

清々しい冬晴れの日、安来の白鳥ロードに出掛けました。田んぼにいるたくさんの白鳥を見て、「近くで見ると案外大きいね。」「あれは、家族かな？」などと利用者様同士で会話を楽しんでおられました。白鳥を見ると「冬がきたな～」と感じますね。



外出支援

照陽の家は住み慣れた地域において、高齢者の方、お子様、地域の方、誰もが集い、多様なサービスや活動の中で支え合う拠点です。



## 研修参加報告(11/23)

鳥取県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会主催の研修会（米子市文化ホール）に参加しました。テーマは「小多機・看多機は地域社会でどんな役割を果たす必要があるのか？」講師として登壇された方々は福岡市で小多機「月の丘とめさん家」管理者の岡崎様、看多機「三丁目の花や」管理者の森本様のお二人。実践者としての熱意ある思いを聞く事ができました。2件の看取りの事例が発表されましたがどうしても重度化してからの出会い、認知症がかなり進んでからの出会いが多く出来れば心身機能や課題が大きくなる前に早くからサービスを利用してほしい、私達と出会ってほしいと訴えられました。その出会いのためには事業者が地域活動を行う事で地域を知り利用者様の過ごし方や環境を大切にする事。そこから「その人を中心に捉えて考えるケア」つまり「パーソンセンタードケア」が出来るようになる・・・それはまさに私達も同じ思いでした。実際の所、私達も早い段階から相談を受け家族支援を行う中で共に伴走していく形を心から望んでいます。看護小規模多機能型居宅介護は主治医との密接な連携の下、退院直後の在宅生活へのスムーズな移行支援、癌末期等の看取り期、病状不安定期における生活の継続支援、家族に対するレスパイトケアなど求められる機能はとてつもなく膨大ですが今回の研修を通して私達が果たす役割について改めて考える機会を頂いた事に感謝しました。

（照陽の家主任 入江 友紀 相談員 東 千春）